

# 読書週間の歴史



## 「読書週間」以前

日本で「読書週間」のような取り組みが最初におこなわれたのは、大正 13 (1924) 年の日本図書館協会が計画した読書運動でした。11 月 17 日～23 日までの 1 週間を実施期間とし、全国各地に「読書の鼓吹」「図書文化の普及」「良書の推薦」などを主要目的として、さまざまな行事が展開されたということです。この運動は図書館だけでなく、出版界の諸団体も参加していました。

その後 10 年間続いたこの行事は、昭和 8 (1933) 年に「図書館週間」と改称し、図書館界が独立しておこなうものとなりました。それまで協力体制をとっていた出版界では、「図書館週間」にあわせて「図書祭」を計画しました。図書館界の「図書館週間」と出版界の「図書祭」は毎年平行しておこなわれましたが、昭和 12 (1937) 年からの日中戦争を受けて、翌 13 (1938) 年に「図書祭」は当時の政府によっておこなわれた 11 月 7 日からの「国民精神作興週間」とあわせて実施されることとなります。一方、図書館界の「図書館週間」は昭和 14 (1939) 年に「一般週間運動廃止令」によって禁じられます。図書館界では名称を「読書普及運動」に、期間を 11 月 8 日～12 日に改める事で続行をはかりますが、情勢を反映して低迷に終わりました。この昭和 14 年をもって、「図書館週間」と「図書祭」は休止となります。



## 「読書週間」の誕生

昭和 20 (1945) 年 8 月 15 日、第二次世界大戦は終戦を迎えます。戦後、占領下の日本においては用紙なども割当制をとられていましたが、それでも出版界は急速に蘇ります。当時の「日本出版協会」会長であった石井満氏に対し、「読書週間」の運動について熱心に進言したのは、栗太確也氏 (明治 27～昭和 52。「栗田書店」創業者) でした。ここに CIE (民間情報教育局) 出版顧問として来日していたフレデリック・メルチャー氏からアメリカの「Children's Book Week」の示唆もあり、「読書週間」が計画されました。

昭和 22 (1947) 年、「日本出版協会」の呼びかけで、この協会を中心に「日本図書館協会」「自由出版協会」ほか、図書館、報道関係や文化関係団体など計 30 余が参加して「読書週間実行委員会」が結成されました。期間はこの年のアメリカの「Children's Book Week」(11 月の第 4 木曜日「感謝祭」の、前の週におこなわれます。1947 年のアメリカの「Children's Book Week」は 11 月 16 日～22 日でした) にならって 11 月 17 日～23 日とされ、全国的行事と地方的行事の二本立てで、東京・大阪・京都・札幌・長野・名古屋・福岡などで実施されました。

東京では、第 1 会場の白木屋で「本になる迄」の展覧会が、第 2 会場の高島屋で「辞典・海外図書・翻訳書展」が催されました。また、東京女高師を会場に教科書の展覧会、美術学校では「書籍と印刷に現われた近代日本美術展」、交通博物館においては交通関係の出版物と児童出版物の展覧会などが開催されました。そのほか様々な記念行事がおこなわれ、その反響は大きく、「1 週間では惜しい」との声のあがる中、閉幕となりました。

翌 23 (1948) 年の第 2 回では、開催期間が改められます。文化の日 (11 月 3 日) を中心にして、その前後 2 週間、すなわち 10 月 27 日 ~ 11 月 9 日と定まったのです。以降、今日に至るまで、日本の「読書週間」はこの期間で開催されています。

平成 17 (2005) 年 7 月、「文字・活字文化振興法」が公布施行され、「読書週間」の第 1 日目である 10 月 27 日が「文字・活字文化の日」に制定されました。



## 「読書週間」を彩るもの

### ポスターと標語

「読書週間」では、全国統一のポスターと標語を利用して、ともに活動を展開して行きます。今年で 60 回を数える「読書週間」ですが、それぞれの時代を映している画や標語も多く見られます。終戦直後の昭和 22 (1947) 年に開催された第 1 回の標語は「楽しく読んで 明るく生きよう」でした。昭和 37 (1962) 年からは文字のみのポスターが目立つようになり、昭和 58 (1983) 年からは標語にも気を配ったデザイン性の高いものになります。平成 8 (1996) 年の記念すべき第 50 回のポスターは、著名なグラフィックデザイナー・福田繁雄氏 (1932 年生。子ども向けの作品には、絵本『かお』(福音館書店刊) などがあります) の作品でした。以降、平成 9 (1997) 年からは「読書週間ポスターイラストコンテスト」が実施され、ポスター用のイラストを広く募集することとなりました。

### シンボル・マーク



社団法人読書推進運動協議会発行の『読書推進運動協議会の二十年』には、次のように記されています。

#### 「読書週間のシンボル・マーク」解説

その昔、ギリシャ神話の世界で、「ふくろう」は、学問・技芸・知恵・戦争を司る美貌の女神アテナの使者であり、また代表的なポリスで文化の中心地アテナイの聖鳥でもありました。

古代のギリシャ人たちは、賢そうな丸い目に、大きなメガネをかけたすまし顔の「ふくろう」を知恵の象徴として大切にしていたといいます。

森の奥ふかく、静かに瞑想にふけるこの「ふくろう」の姿こそ、読書週間のシンボル・マークとしてもっともふさわしいものと考え、読進協では長い間使用してきました。



## 「読書週間 60 周年記念ポスター展」について

「読書週間 60 周年記念ポスター展」では、今年「2006 第 60 回・読書週間」までのポスターを展示しています。歴代の標語の中には、本好きの皆さんの心にぴったり来る言葉も見つかるのではないのでしょうか。

時代とともにポスターのデザインが変遷して行く様をお楽しみください。

### 【参考資料】

書籍および刊行物

『読書推進運動協議会の二十年』昭和 55 年 / 社団法人読書推進運動協議会 刊

インターネットサイト

「社団法人読書推進運動協議会」(<http://www.dokusyo.or.jp/>)

「The Children's Book Council」(<http://www.cbcbooks.org/cbw/history.html>)